

2023年6月1日
合同会社Simply Native
代表 松元 由紀乃

職人による作品づくりの過程を伝える企画展「Artistry at its Finest
(至高の職人展)」をシドニー・紀伊國屋書店ギャラリーにて開催



「Humanityに溢れた暮らしを届ける」を事業コンセプトに、オーストラリアを拠点として日本全国のてしごとを世界に届ける合同会社Simply Nativeは、ものづくり過程や作り手の人となり伝える企画展「Artistry at its Finest (至高の職人展)」をシドニー・紀伊國屋書店ギャラリーにて開催いたします。

展示会では、日本全国から10名の作り手を紹介いたします。ものづくりの過程を作品づくりのインスピレーションや道具と共に紹介することで、来場者が作品を生み出す作り手やものづくりの背景に想いを寄せていただくことを期待しています。

「Artistry at its Finest ‘至高の職人展」
シドニー紀伊國屋書店「Maker's Month」特別企画展

| 開催期間: 2023年6月2日～6月29日

| 会場: シドニー・紀伊國屋書店 Wedge Gallery
Floor 2/500 George St, Sydney NSW 2000



<参加アーティスト一覧>

吉田 薫

ガラスアーティスト / 富山県



富山県の立山連峰の壮大な山々に囲まれた環境で育った作家自身の経験から、その壮麗な風景が作品のインスピレーションとなっています。

制作には2つの異なるガラス製作の技法を駆使し、作家が幼少期から親しんできた剣岳の雪と氷河のイメージを美しいガラス製品に昇華させています。

それぞれの作品は、独自の表情を持ち、ガラスの魅力を引き立てます。一つ一つ表情の異なる作品をお楽しみください。

和田山 真央

陶芸家 / 和歌山県



美しい色彩と繊細なフォルムがオーストラリアでも非常に人気のある陶芸家の一人。

2012年の京都美術・工芸ビエンナーレや第22回日本陶磁展、第6回現代茶陶、神戸ビエンナーレ2013、第3回現代陶芸の萩大賞など、日本で数々の賞を受賞している。

作品は独自の柔らかな釉薬の配合によって生み出され、色彩のゆらぎが作品の特徴となっています。その美しい色彩の変化をぜひお楽しみください。

伊勢崎 創

陶芸家(備前焼) / 岡山県



現代の備前焼のパイオニアとして、絶妙な技術で作品に美しい稜線を際立たせ、多くの人々に愛されています。

備前焼は、岡山県の備前地域で1000年以上にわたり受け継がれてきた、伝統的な日本の陶芸です。

作品は無釉で表現され、地元の粘土を300万年前の地層から採取し、自然な色と質感を引き立てます。焼成方法は予測不可能で再現ができず、それによって作品はたった一つの存在となります。

米原 康人

京扇子箔押し職人 / 京都



伝統工芸士として、芸や儀式を通じて作られ、伝えられてきた日本の美德や、それを表現する技術を現代のライフスタイルに合った形にすることで後世に伝えていきたいという思いから、家具や内装、小物などへの箔加工を施すようになりました。

今回の展示会では、扇子も展示しています。芸や儀式の小道具として文化を支えて来た京都だからこそ、表現できるものがあります。昔から大切にしてきた扇子作りのエッセンスは残しながらも、現代のスタイルに合わせて製作した扇子をお楽しみください。

藤澤 典史

仏具関連の金箔押し職人 / 京都



金閣寺などの神社や寺院に金箔を施す「漆箔」という伝統的な金箔貼り技術を継承し、保存することを目指して自身の工房を設立されました。

金箔を施す「漆箔」という技術は、日本で1400年以上にわたって代々受け継がれ、日本では金は普遍的な美しさを持つため、宗教的な工芸品として広く使用されてきました。

日本の宗教で使われてきた伝統的な製品が、現代のインテリアオブジェクトとして再現され、祈りの世界へと導いてくれます。

南條 和哉

鳴物神仏具職人 / 京都

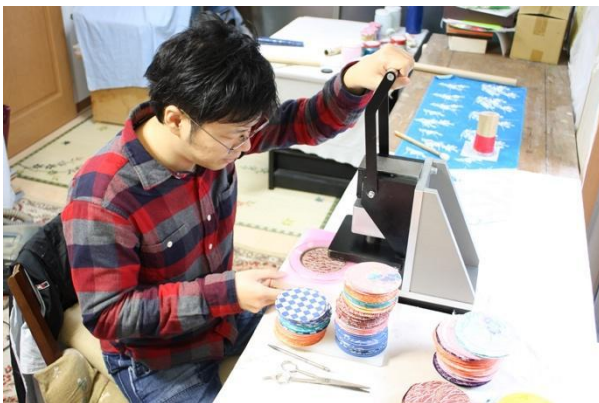


京都に190年以上の歴史を持つ南條工房は、伝統的な技法と長年培われた材料を使用して、神社や寺院、家庭で使用される音を奏でる神道や仏教の道具を専門に作る日本で唯一の工房です。

工房独自の配合率で作られた銅と錫の合金「佐波理 (さはり)」と伝統の薪を使った焼型鑄造法で、素材の個性を引き出し、各作品に独特の音色を生み出します。

心温まるおりんの音色が心を癒し、日常の豊かな瞬間を創り出してくれることを願って。

竹中 秀美、竹中 大輔
金彩職人 / 京都



竹中秀美は、京友禅の着物を金箔で装飾する金彩工芸の職人です。1973年の創業以来、晴れ着や婚礼衣装の製作に携わってきました。

金彩は、金属箔や金属粉を着物に接着加工する技術の総称で、京都の美しい和装文化の一端を担っています。

厚さわずか1000分の1mmの金箔を扱う繊細さと、染織の意匠や色彩と金の装飾が上手く引き立て合うようにまとめ上げる感性が求められる仕事です。

2014年からは、デザイナーの息子である大輔と共に、和装に捉われない新しいものづくりにも挑戦しています。

松元 勝彦
大島紬 / 鹿児島



20以上の全ての工程が手作業で作られ、ひとつの着物の完成までに1年以上かかることもある本場奄美大島紬の加工に数十年関わり、近年は数少ない修復士として産業に関わり続けています。

Simply Nativeの創設者である松元由紀乃の父親でもあり、松元は父のような職人に光を当てたいという願いから2016年にSimply Nativeを立ち上げました。

折井 宏司
高岡銅器 / 富山県



momentum factory Oriiは、日本のバブル経済の崩壊後、新しい文化の形成を促し、職人が自分たちの製品を作って販売する手助けをするために立ち上げられました。

1950年に富山県高岡市で創業を開始されて以降、momentum factory Oriiは、400年にわたって育まれてきた高岡銅器の伝統技術を受け継ぎ、作品を製作しています。

momentum factory Oriiの魅力の一つである銅の着色技術は、金属の腐食性と火を使って化学反応を制御し、鮮やかな色を生み出すもので、過去には、仏像や茶道具、工芸品などの伝統的な鋳造物に取り組みられてきました。

彼らはこの産業の将来を、伝統的なアプローチを取り入れて新しいアイデアを生み出し、自らに挑戦し、常に前進することと考え、日々制作活動に打ち込んでいます。

株式会社タニハタ
組子 / 富山県



富山県富山市で組子細工を製作する職人集団「タニハタ」。

組子細工は、釘を使わず木製格子を作る日本の伝統木工技術で、この繊細かつ洗練された技術は1400年前の飛鳥時代から引き継がれてきました。

薄い木片に組手と呼ばれる溝が刻まれ、それを手作業によって組み付けることで格子が作られます。

伝統の技術だけでなく最新のデジタルを融合させ、より精度の高い製品を作ることに情熱を注いでいます。

製作に使用する木材は主に日本の杉とヒノキで、製作する際にかかる環境への影響を最小限に抑えているサステナブルな製品としても非常に注目されています。